

令和5年度 学校評価

【教育の基本方針】(尼崎市教育振興基本計画)

- 1 未来志向の教育
- 2 個の尊厳や人権の尊重
- 3 家庭・地域社会との連携(子どもの視点に立った教育)

[各校の重点取組について]

- | | | |
|---------------------|------------------|--------------------|
| 1. 生徒理解にもとづく生徒指導の充実 | 2. 学力向上の推進 | |
| 3. 道徳教育、キャリア教育の推進 | 4. 業務改善・勤務時間の適正化 | 5. 今日的課題に対応する教育の推進 |

学校評価の観点

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む (1) 授業改善の取組を促進するとともに、客観的なデータを踏まえた確かな学力の保証及び織のつながりを重視した校種間の連携に努める (2) 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ、様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となる特別支援教育の取組を充実させる (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、健全な心と身体を培い、豊かな人間性の育成を図る (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る (5) 積極的にICTを活用し、情報活用能力の育成を図る		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・あまっ子ステップアップ調査の昨年度の結果に基づき、今年度は①「生徒が自ら家庭学習に取り組む、学力向上を図る取組」②「生徒が登校したくなるような学級経営」を研究テーマとした。 ・今年度は、理科と保健体育で校内研究授業を実施した。 ・小学校への出前授業を実施し、小学校教員との交流を図った。 ・小中連携の合同研修の中で、学習指導、生徒指導、特別活動等の各学校の取組について教員間での情報交換を行った。 ・中2対象の生活習慣病予防検診を市の健康支援推進担当と連携して行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに基づき、スタディサプリ研修を行い、朝の常学習、家庭学習への活用に活かした。 ・校内研究授業では、教科の枠を超えた授業力の向上に取り組むことができた。 ・小学校の教員と情報交換を行うことで、9年間を見通した指導を意識して行うことができた。 ・89名が受診し、生活習慣病を予防するための知識を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの設定が年度明け手からの動き出しであったため、なかなか学年や学校で統一した取り組みがやり切れずに個々の教員任せになった部分が反省点である。 ・教育課程の編成上、日常的に小学校との連携は難しいが、無理なくできることから継続的に実施していくことで校長間の共通理解を得ることができた。 	

		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る (1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、多様性を受容し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もが安全・安心して過ごすことができる学校の環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成を図る (5) 不登校にならないようにするための学校づくりを進めるとともに、不登校児童生徒の学習環境の確保や家庭への支援に努める		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に生徒理解研修を実施し、特別な支援を要する生徒についての共通認識を図った。 ・生徒向けの人権講演会、赤ちゃん教室、いのちと心の講演会を実施することで人権にかかわる生徒の意識の向上を図った。 ・いじめについては年間3回のアンケートを実施することで、早期発見・早期対応ができた。 ・SNSに係るトラブルはここ数年どの中学校でも多く見られるため、情報モラル研修会を実施し生徒の意識を高めた。 ・昨年度の生徒の自死案件をふまえて、「子どもの自傷行為の対応について」の研修を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週行う教育相談員会で、特別に支援を要する生徒や不登校生徒の情報交換を行い、学校全体で支援をしていく情報共有が行えた。 ・卒業判定、進級判定にかかる生徒と保護者に対して校長面談を実施し、来年度に向けた話し合いができた。 ・いじめに対するアンケートの実施と、対応については教員の意識が変わってきている。 ・生徒の自傷行為についてもいち早く情報をキャッチし、保護者とも連携して対応にあたることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の割合が多く、来年度に向けた新たな取組を考える必要があるため、今年中にまとめていきたい。 ・生徒はいじめは絶対にいけないことの認識はあるが、クラスにそれを許さない雰囲気があるかと問われるとまだまだ意識が低い面が見られた。 ・保護者の中には、いじめについての認識がまだまだ浸透していないところあり指導で困難な場面もあった。 ・SNSのトラブルについては定期的な講演会等を行ってもなかなか0(ゼロ)になることはなく、継続した指導の必要性が感じられた。 	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 学校と地域との連携・協働を推進し、地域とともにある学校づくりに努める		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・ノー会議デー、定時退勤日を月中行事表や連絡黒板にも明記し教員一人ひとりの意識付けを行った。 ・今年度の重点取組の生徒理解にもとづく生徒指導の充実の中で、生徒、保護者、地域の人とていねいに関わる。思いを受け止めるということを中心に学校経営を進めてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の業務改善と合わせて、記録簿や日々の勤務実態を把握しながら教員には声かけや面談を行いながら対応した。 ・各教員は生徒、保護者、地域の人とていねいに関わる中で、地域の中の学校であることを意識するようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが少しずつは意識しているが、絶対的な業務量が減らないため困難な面はあるが、仕事にメリハリをつけることでリフレッシュを図ることで対応している。 ・コロナの影響もあり、地域と生徒の交流はなかなか十分にはとれていないが、学校と地域の関係団体との情報交換等は少しずつ、もとに戻りつつあるため、引き続き地域の中の学校を意識した取り組みを進めていきたい。 ・令和7年度からのコミュニティスクールにも繋げていきたいと考えている。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育的取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育的取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を対象とした自転車安全教室を実施し、全校生徒へは自転車乗車時はヘルメット着用が義務化されたことについて指導した。 ・1年生ではSNS講演会を実施し、全学年で情報モラルの研修およびスマートフォンの適切な使い方について指導した。 ・各学期に防災訓練、および防災講話を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動での自転車移動も含めて生徒のヘルメット着用が増加している。 ・SNSの使い方によっては、被害者になることも加害者になることもあり得ることについての理解が進んだ。 ・避難訓練では、ふざけることなく迅速な行動をとることができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部で自転車の乗り方について、危険なところがあったり周りに迷惑をかけているところもあるため継続した指導が必要である。 ・スマートフォン、SNSに関わるトラブルは毎年講演会等を実施してもなくなることはなく、引き続き継続した指導を続ける必要性を感じている。 ・災害はいつ発生するかわからないため、防災意識を高めるとともに、もしもの場合に生徒が自ら考えて判断し行動する力を養っていく。 ・保護者へも周知も含めて家庭と連携しながら指導を進めていく必要がある。 	

教育目標		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	3
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解にもとづく生徒指導の充実、学力向上の推進、今日的課題に対応する教育の推進を重点目標として、生徒向け研修会、検定チャレンジ、小中連携、職員研修を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員は生徒、保護者とていねいにかかわり、日々の教育活動に熱心に取り組んだ。 校内における具体的な学校評価を実施し、現状の把握に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、保護者、地域から信頼される学校、安心・安全な場所である学校を目指し、今年度の反省も活かして来年度も取り組んでいく。 	

研究テーマ		評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
		3	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実			
取組	成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> 「生徒が自ら家庭学習に取り組み、学力向上を図る取組」、「生徒が登校したくなるような学級経営」を研究テーマとし、教科と道徳の校内研究授業を実施した。 小学校へのお出前授業を実施し、小学校教員との交流を図るとともに、合同研修の中で、学習指導、生徒指導、特別活動等の各学校の取り組みについて教員間での情報交換を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに基づき、スタディサブリ研修を行い、朝の帯学習、家庭学習への活用に活かした。 校内研究授業では、教科の枠を超えた授業力の向上に取り組むことができた。 小学校の教員と情報交換を行うことで、9年間を見通した指導を意識して行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの設定が年度明け手からの動き出しであったため、なかなか学年や学校で統一した取り組みがやり切れずに個々の教員任せになった部分が反省点である。 教育課程の編成上、日常的に小学校との連携は難しいが、無理なくできることから継続的に実施していくことで校長間の共通理解を得ることができた。 	